Panasonic

施工説明書

アンダーシンクアルカリ 家庭用

品番 TK-AB40

上水道専用

■ 設置は、この施工説明書に従って正しく行ってください。
- 配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行ってください。なお、シンクの種類、フロアキャビネットの組み合わせによって、配管接続方法が異なりますのでご注意ください。

■ 最終点検(水漏れ、動作および通水量確認)は、必ず行ってください。

■ 設置終了後、取扱説明書・保証書・グリセロリン酸カルシウム製剤・pH試験液およびこの説明書は、必ずお客様にお渡しください。

■ 正しい設置をされなかった場合の製品の故障および事故について、当社は責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

もくじ

ページ

安全上のご注意 （必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った設置をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

⃠	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。
	気をつけていただく内容です。

⚠警告

飲用に合格した水（水道水など）以外には使用しない

禁　止

殺菌能力がなく、除去できる物質（26ページ参照）以外の有害物質は除去できないため、飲むと体調を損なう原因になります。

設置は、この施工説明書に従って、確実に行う

必ず守る

設置に不備があると、火災・感電・事故の原因になります。

コンセントの設置は、電気設備技術基準や内線規程に従って、電気工事士が、安全、確実に行う

必ず守る

誤った電気工事は、感電や火災の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない

禁　止

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電源コードは、引き出しのレールや扉に挟まれないように配置する

必ず守る

電源コードが破損し、感電・ショート・火災の原因になります。

配管部以外は、分解したり、修理・改造しない

分解禁止

火災・感電の原因になります。

⚠警告

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

禁　止

（・ステープル（⌒）などで固定する　・傷つける　・加工する　・熱器具に近づける
・無理に曲げる　・ねじる　・引っ張る　・重い物を載せる　・束ねる　・挟み込む　など）

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

電源プラグは、根元まで確実に差し込む

必ず守る

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

● 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

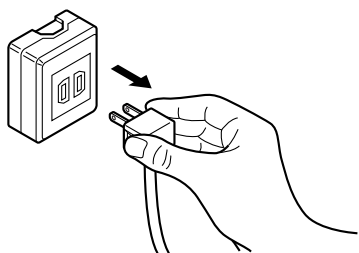
⚠注意

ワークトップ(カウンタートップ)の穴あけには、材質に合った工具を使う

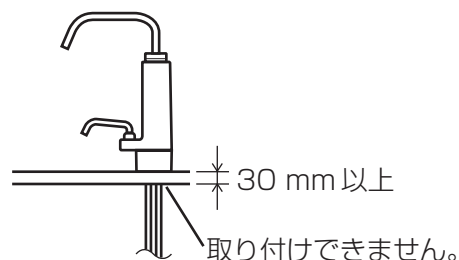
（天然大理石、ホーローなど特殊なものについては、キッチンメーカー指定の設置方法で行ってください。）

無理に穴あけをしようとすると、ワークトップ(カウンタートップ)を破損する原因になることがあります。

電源プラグをコンセントから抜くときはプラグをもって抜く

必ず守る

電源コードを引っ張るとコードが破損し、感電・火災・ショートの原因になります。

ワークトップ(カウンタートップ)が厚さ30 mm以上の場合は、穴あけしない

禁　止

取り付けができませんので、万一、穴をあけた場合に補償問題になることがあります。

ワークトップ(カウンタートップ)や流し台(キャビネット内)に穴をあけるときは、屋内配管を傷つけない

禁　止

万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

安全上のご注意 必ずお守りください

⚠注意

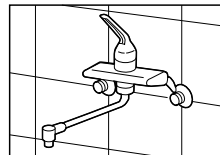
本器は、アルカリ本体・付属のアルカリ用水栓および設置部材を、セットで使用する

必ず守る

万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になります。

- アルカリ本体およびアルカリ用水栓を、単独で使用しないでください。

壁面取付タイプの水栓には、取り付けない

禁　止

（例）
配管が不明確なので、取り付けができなかったときに補償問題になります。

アルカリ用水栓の先に、他の機器を接続しない

禁　止

アルカリ本体に異常な水圧がかかり、水漏れの原因になります。

アルカリ本体は平らな場所に設置する

必ず守る

不安定な状態で設置すると、転倒してけがの原因になります。

ホース類を折り曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、挟み込んだりしない

禁　止

水漏れの原因になります。

- ホース類は、引き出しのレールや扉に挟まれないように配置してください。

配管は、水漏れのないよう確実に行う 特に固定金具（クイックファスナー）などは、確実に取り付ける

必ず守る

確実に接続されていないと、ホースがはずれて水漏れの原因になります。

先止め（26ページ参照）の配管に改造しない

禁　止

アルカリ本体に常時水圧がかかり、ウォーターハンマーなどにより、水漏れの原因になります。

一次給水側は、特に水漏れがないように確実に接続する

必ず守る

万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

最終点検時は、アルカリ用水栓を含む配管接続部全体の水漏れ点検を十分に行う

必ず守る

万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

設置上のお願い

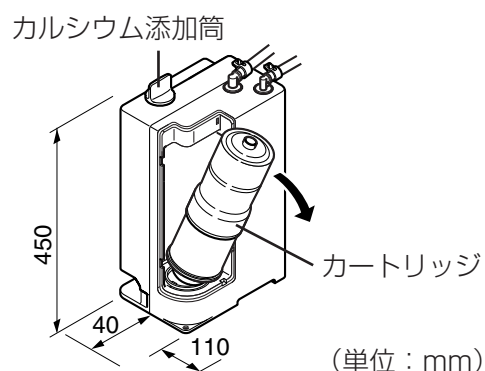
■ 次のような場所には設置しないでください。（故障の原因）
- ●高温部（40 ℃以上）の近く
- ●浴室やアルカリ本体に水・蒸気のかかる所
- ●屋外や風雨にさらされる所
- ●油の付着する所
- ●凍結の可能性のある所（本器は寒冷地仕様ではありません。）

■ 配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の条例規定に準じて行ってください。
なお、シンクの種類、フロアキャビネットの組み合わせによって配管接続方法が異なります。

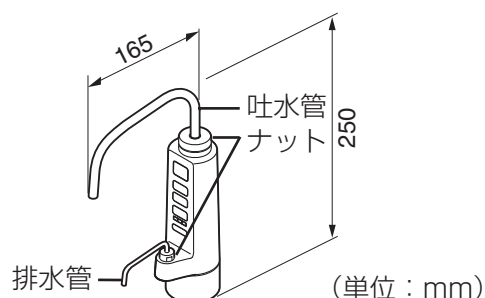
■ 水道法基準適合の認証登録品ですので、必ずアルカリ本体、付属のアルカリ用水栓、設置部材をセットでご使用ください。

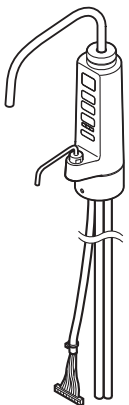
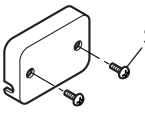
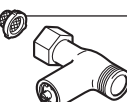
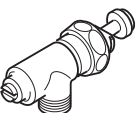
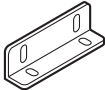
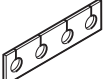
■ アルカリ本体を設置する前に、電源コンセント（交流100 V）をキャビネット内部に取り付けてください。
（キャビネット内部に取り付けできない場合は、12ページの「キャビネット内にコンセントが固定できない場合」を参照してください。）

■ 設置場所は、流し台（キャビネット内）に取り付ける棚やオプションの位置によって決めますが、必ずお客様とご相談のうえ、カートリッジ交換およびカルシウム添加が容易な位置に設置してください。
（最低でも右記寸法のスペースが必要です。）

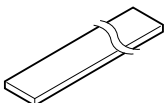
（単位：mm）

■ 昇降式のキャビネットがある場合は、可動部が接触しない位置にアルカリ用水栓を設置してください。
（最低でも右記寸法のスペースが必要です。）

■ アルカリ用水栓の吐水管と排水管のナットは、工具で締めつけないでください。（故障の原因）

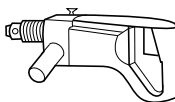
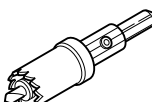
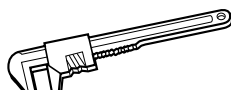
（単位：mm）

■ 本体を倒した状態で設置しないでください。（故障の原因）

■ 給湯配管には接続しないでください。（故障の原因）

■ 水の出口（吐水口・排水口）を、ホースなどで延長しないでください。（故障の原因）

■ 排水口をふさがないでください。（故障の原因）

■ 設置の際に、流し台の構造や材質などの確認が必要になった場合は、キッチンメーカーへお問い合わせください。

付属部品一覧

次の付属部品を確認してください。

アルカリ用水栓〔1本〕	水栓固定金具〔1個〕	コネクターカバー〔1個〕 （ねじ2本付き） ねじ （テープ止めしています。）	止水栓〔1個〕 （逆止弁付・呼び径1/2） フィルター付パッキン〔1個〕 （テープ止めしています。）
	分岐金具〔1個〕 （呼び径1/2）	固定金具〔1個〕 （クイックファスナーNo.12.7）	給水ホース〔1本〕 （呼び径1/2） 長さ 約1 000 mm
L字金具〔1個〕 （本体ずれ防止用）	粘着テープ〔1枚〕 （L字金具固定用）	ホース締付バンド 〔大・1個、小・1個〕	配管接続用パッキン 〔1個〕
ホース固定バンド〔2本〕	防虫シート〔1枚〕	pH試験液〔1個〕	タッピンねじ〔2本〕
取扱説明書一式 [取扱説明書、保証書、グリセロリン酸カルシウム製剤（1袋）]、**施工説明書**			

流し台や配管方法によって必要な部品

（別途準備してください。）

給水ホースを延長する場合

- フレキ管（SUS. 呼び径1/2）
  または
  ステンレス製ブレードホース（呼び径1/2）水道法適合品で防錆用の被覆があるものをご使用ください。
- フレキ管用ニップル（呼び径1/2）

パッキン

ステンレス製のワークトップで補強板が付いていない場合、また補強板が付いていても、ワークトップと合わせた厚さが5 mm以下の場合

- 補強板（厚さ10 mm～15 mm）

工具一覧

■ 設置には、下記の工具が必要です。（別途準備してください。）

電動ドリル

ホールソー
サイズ
- φ35～φ39
- φ27～φ29

※ ワークトップの穴あけや、配管・コード用の貫通穴をあける場合に使用します。

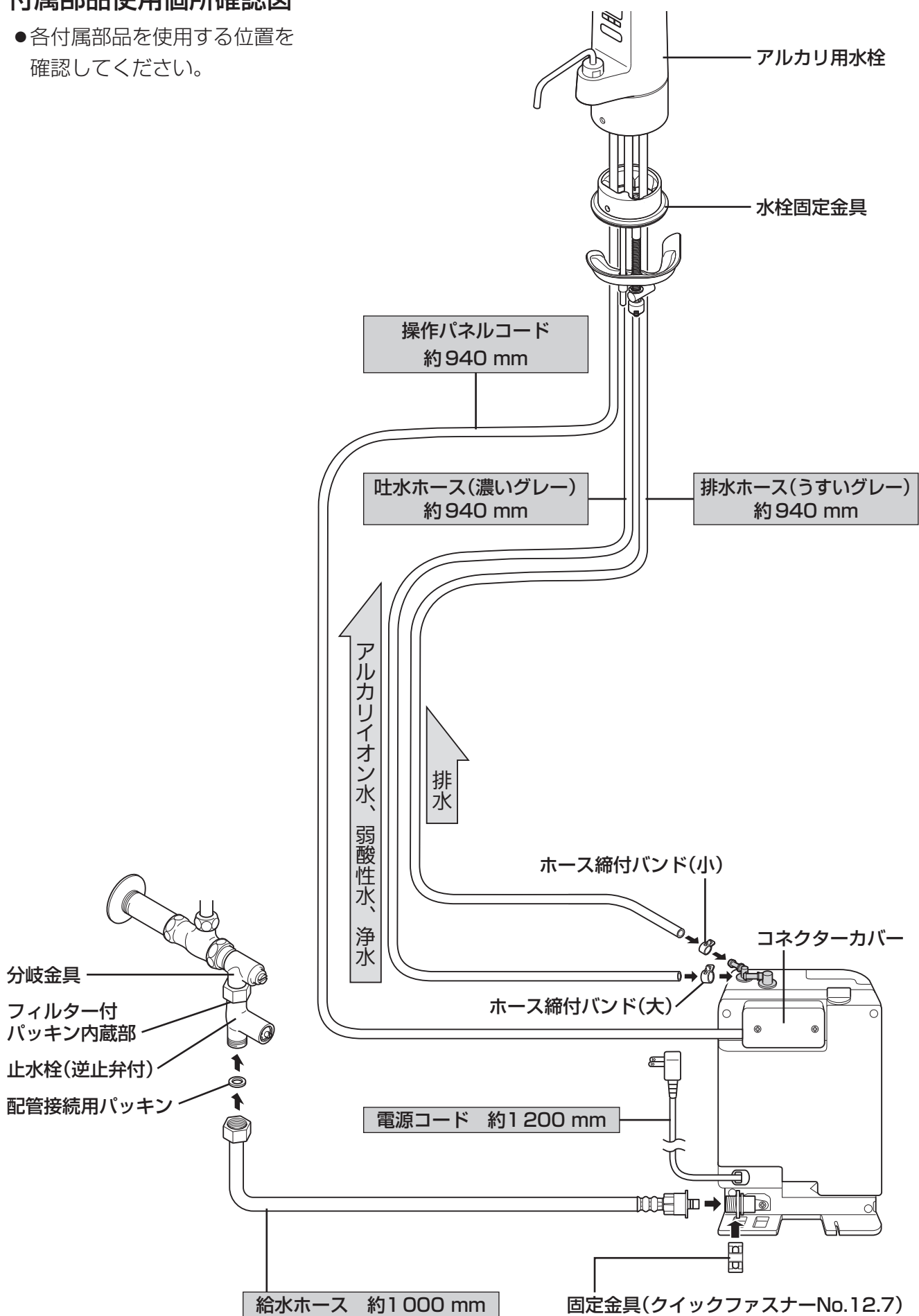
六角レンチ
サイズ
- 2.5 mm
- 4 mm

モーターレンチまたはモンキーレンチ

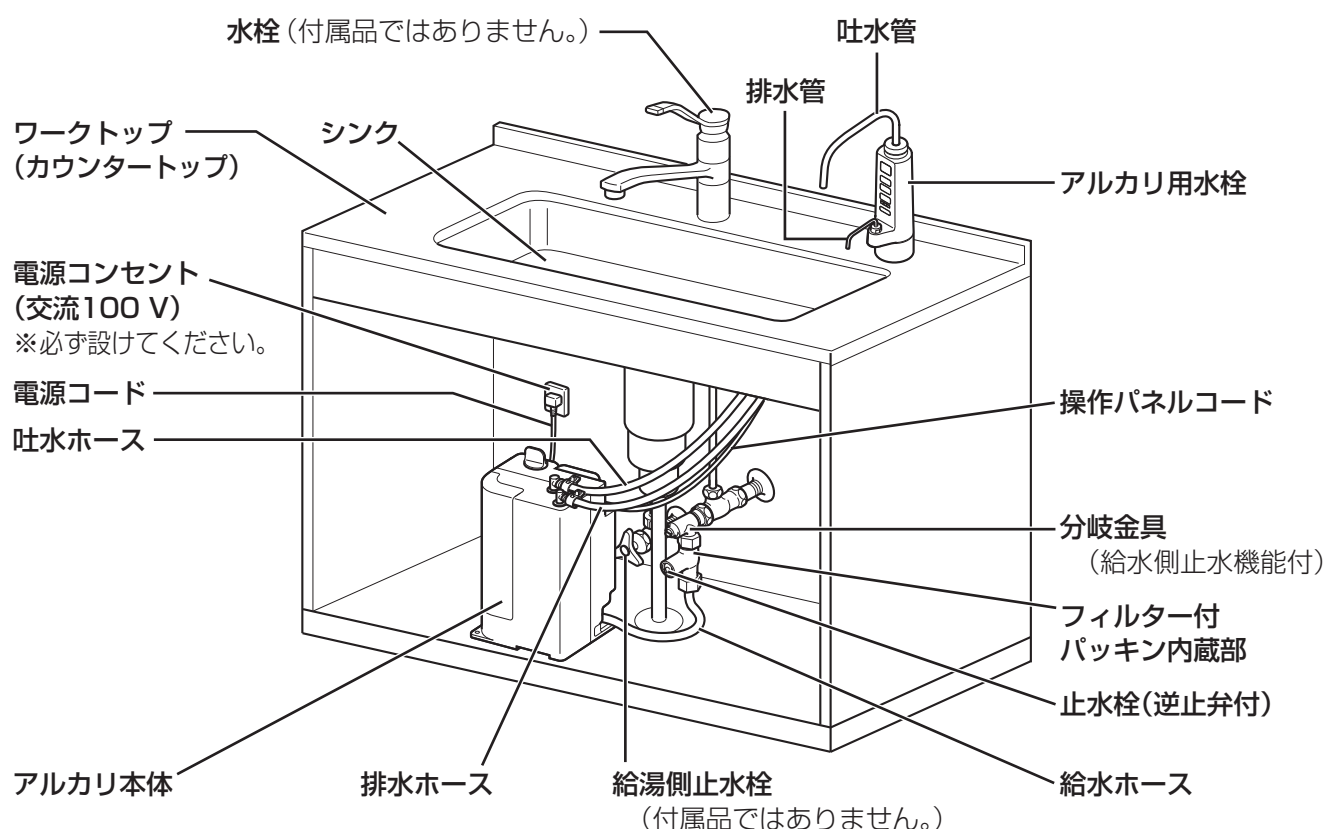
⊕および⊖ドライバー

- スケール
- ヤスリ
- ハサミ
- ペンチ
- カッター

■ 付属部品使用個所確認図

- 各付属部品を使用する位置を確認してください。

設置の概要

	参照ページ
設置の前に（必ず確認してください）	9～11
▼	
コンセントの取り付け	12
▼	
止水栓の取り付け	13
▼	
ワークトップへの穴あけ	14
▼	
アルカリ用水栓の取り付け	15～16
▼	
アルカリ本体の設置と接続	17～21
●アルカリ用水栓をキャビネット外（配管スペース）に取り付ける場合	20
●アルカリ本体の固定または、ずれ防止が必要な場合	21
▼	
最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）	22～25

概要図

設置の前に（必ず確認してください）

チェック欄にチェックしながら、必ず確認してください。

チェック □

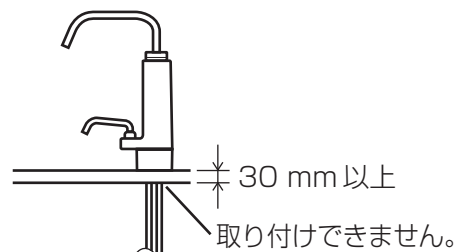
⚠注意

ワークトップ（カウンタートップ）が厚さ30 mm以上の場合は、穴あけしない

取り付けができませんので、万一、穴をあけた場合に補償問題になることがあります。

ワークトップ（カウンタートップ）の材質を確認する

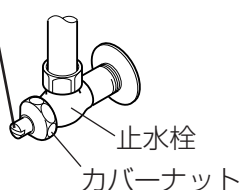
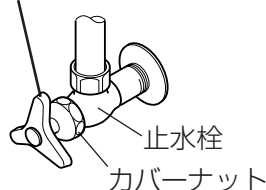
チェック □

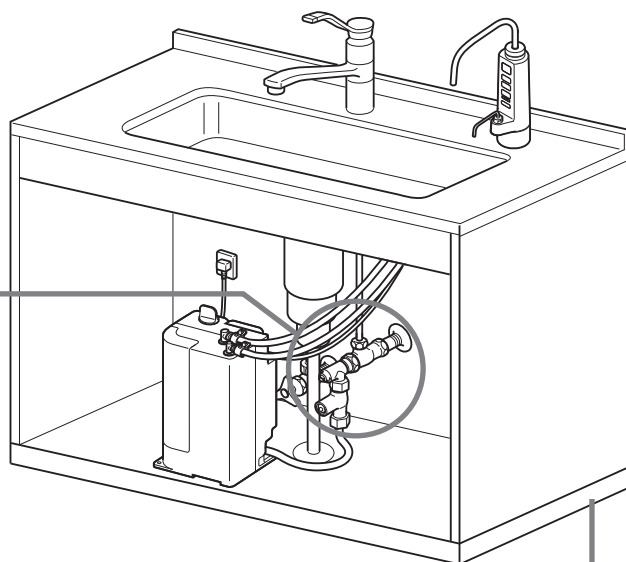
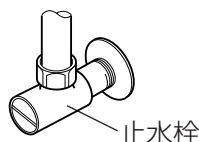
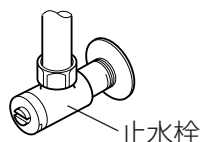
- 材質によっては、穴があけられない場合があります。付属の**「穴あけ加工可否分類」**を参照し、穴があけられるか、必ず確認してください。

給水側止水栓のタイプを確認する

チェック □

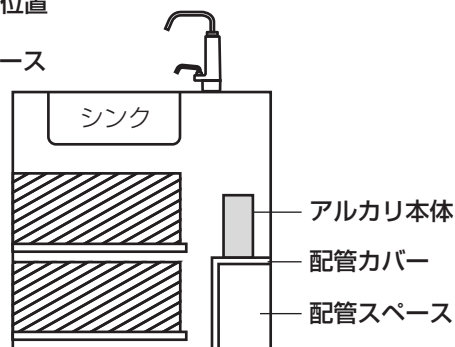
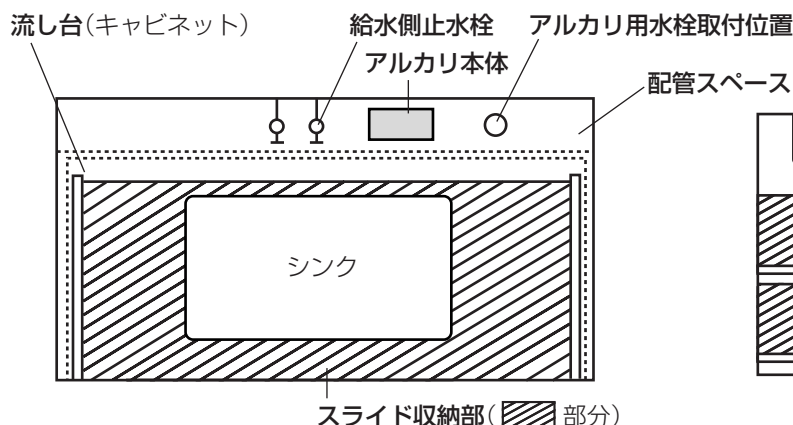
- カバーナットが付いていない止水栓には、分岐金具が取り付けられません。

取り付けできるタイプ

- **ハンドルタイプ**
- **マイナス溝タイプ**

取り付けできないタイプ

- **内ネジタイプ**

流し台のタイプを確認する（下図は一例です。設置できないキャビネットもありますのでキッチンメーカーにご確認ください。）

チェック □

- スライド収納式のキッチンは、アルカリ本体をキッチンの配管カバー上に置きます。
〔アルカリ本体が不安定なときは、本体の固定または、ずれ防止を行う必要があります。
（21ページ参照）〕

設置の前に（必ず確認してください）

■ アルカリ用水栓の位置決めのポイント

後板にあたらない所 チェック □

シンクポケット（石けん、洗剤入れ）にあたらない所 チェック □

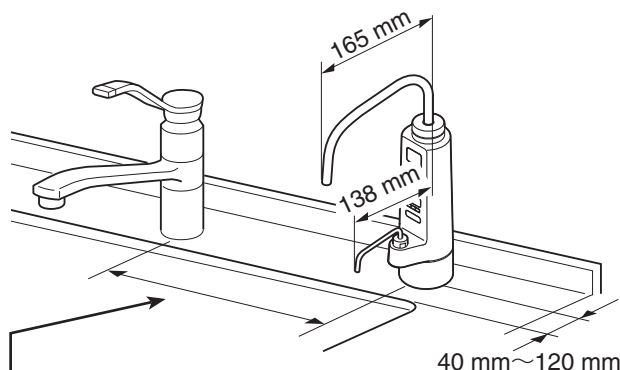
水栓にあたらない所 チェック □

水がシンクの中に流れる所 チェック □

- アルカリ用水栓のセンターからシンクまでが、約40 mm ～120 mmの位置に設置する

165 mm

138 mm

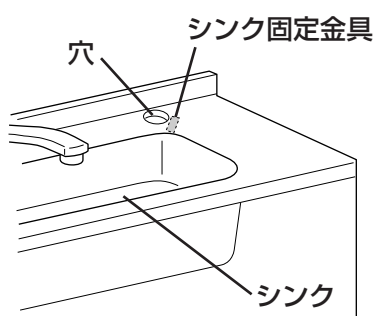
40 mm～120 mm

- 点検口から設置ができる位置（300 mm程度）
  ※キッチンメーカーの取付設置説明書に従ってください。

※水栓底部がワークトップの段差や曲面に乗り上げない位置

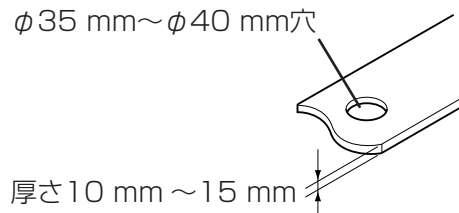
裏側にシンク固定金具がない所 チェック □

穴

シンク固定金具

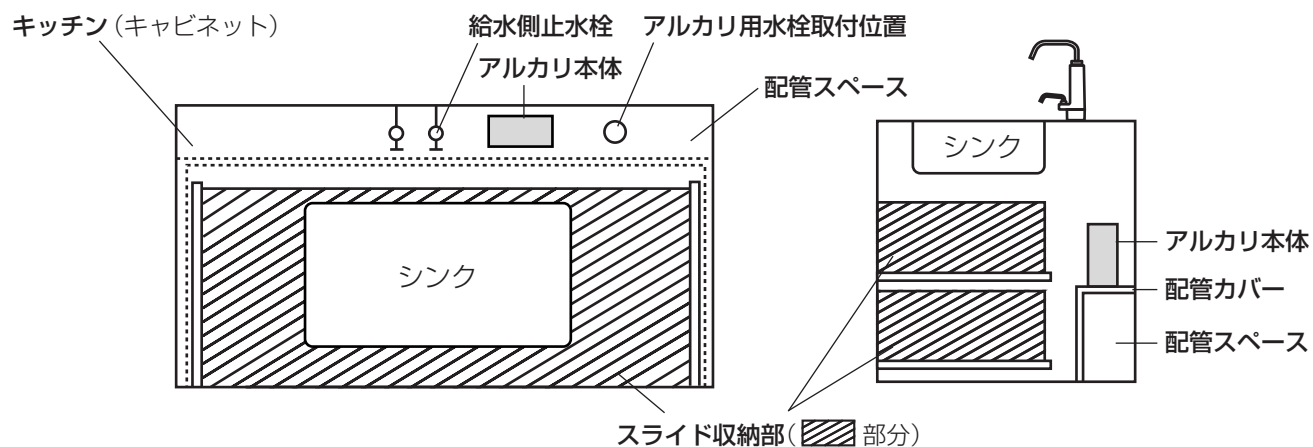
シンク

ステンレス製のワークトップで補強板が付いていない場合、また補強板が付いていても、ワークトップと合わせた厚さが5 mm以下の場合は…

- 補強板が必要です。

φ35 mm～φ40 mm穴

厚さ10 mm ～15 mm

- イラストは、右側にアルカリ用水栓を設置した場合を使用して説明していますが、左側に設置する場合も、位置決めのポイントや設置の手順は同じ要領です。

■ スライド収納式のキッチンについて

キッチンの配管カバー上にアルカリ本体を設置する場合があります。スライド収納の引き出しをはずしてから設置を行ってください。
〔アルカリ本体が不安定なときは、本体の固定または、ずれ防止を行う必要があります。(21ページ参照)〕

●スライド収納の引き出しの取りはずし、取り付けはキッチンの取扱説明書に従い、正しく行ってください。

電源コードは、引き出しのレールや扉に挟まれないように配置する

必ず守る

電源コードが破損し、感電・ショート・火災の原因になります。

注意

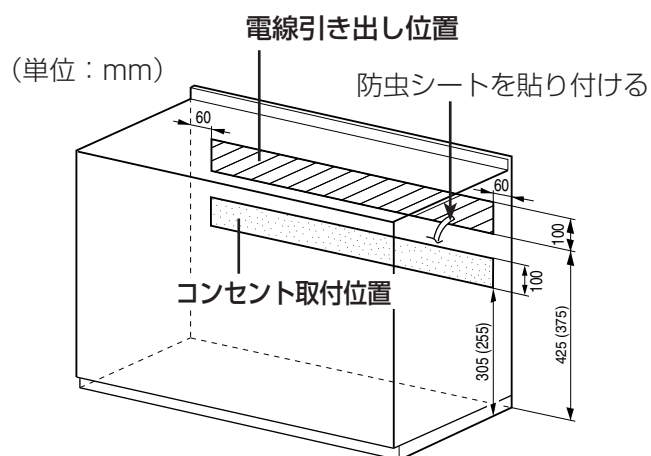
ホース類を折り曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、挟み込んだりしない

禁　止

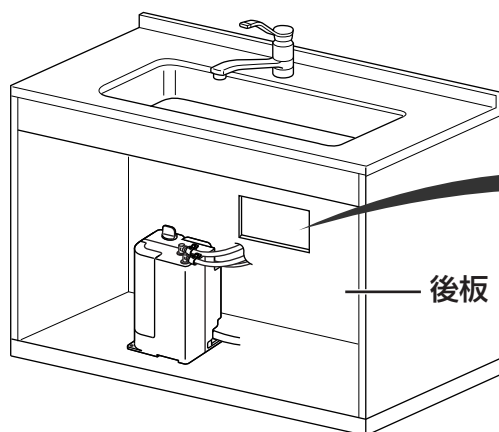
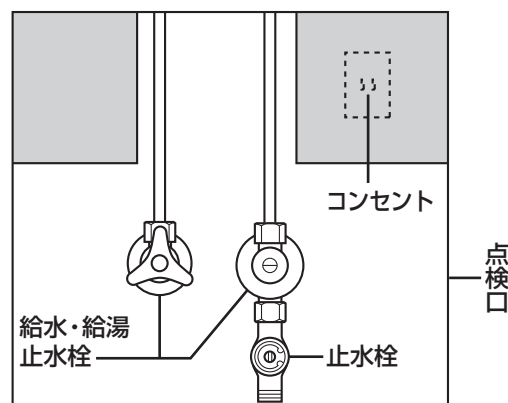
水漏れの原因になることがあります。

●ホース類は、引き出しのレールや扉に挟まれないように配置してください。

コンセントの取り付け

キッチンのキャビネット内または配管スペースに、本体電源用の**コンセント(AC100 V)**が必要です。

※(　　)寸法はキッチンの高さ80 cmの場合

- 電気工事士の方が行ってください。
- 電線は、後板の▨の範囲内から**1.5 m以上**引き出してください。
  (VVFφ1.6 mmまたはφ2.0 mmアースなし)
- コンセントは、キャビネット庫内の▒の範囲内で、アルカリ本体設置側に取り付けてください。
- 電線引き出し位置・コンセント取付位置は、キッチンの高さに合わせて調整してください。
- 指定の範囲に取り付けできない場合は、電源プラグがすぐに取りはずせる位置を選んで、コンセントを設置してください。
- 電線を引き込んだ穴には、防虫シートを貼り付けてください。
  (付属の防虫シートを切って、使用してください。)

キャビネット内にコンセントが固定できない場合

- キャビネット外(配管スペース)にコンセントを取り付けてください。

- 次のような場所に設置してください。
  - 止水栓より上部
  - 電源プラグの抜き差しがしやすいところ
  - 配管からの水漏れ・結露水がコンセントにかからないところ

⚠ 注意

配管スペースにコンセントを設置する場合、点検口のふたは、ネジ止めなど取りはずしに工具が必要な固定をしない

禁　止

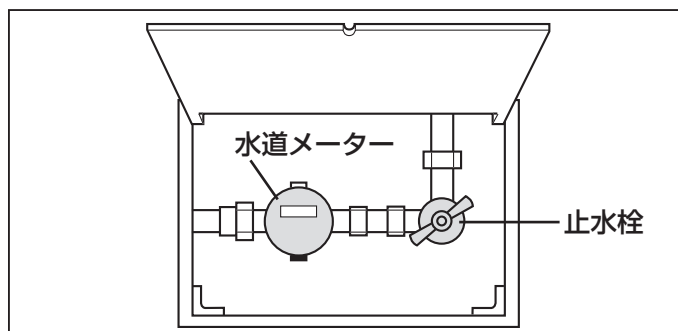
万一の異常発生時に、電源プラグが抜けず、漏電・発火の原因になることがあります。

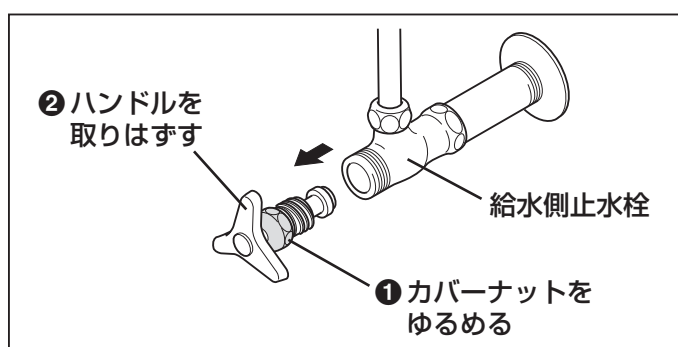
止水栓の取り付け

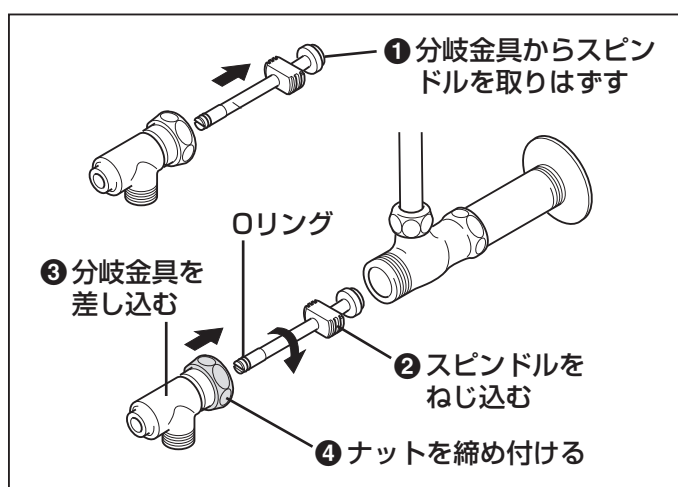
分岐金具(付属部品)を使い、給水側止水栓に止水栓(付属部品)を取り付けてください。

●給湯側止水栓には、取り付けないでください。

1 水道メーターの止水栓を閉じる

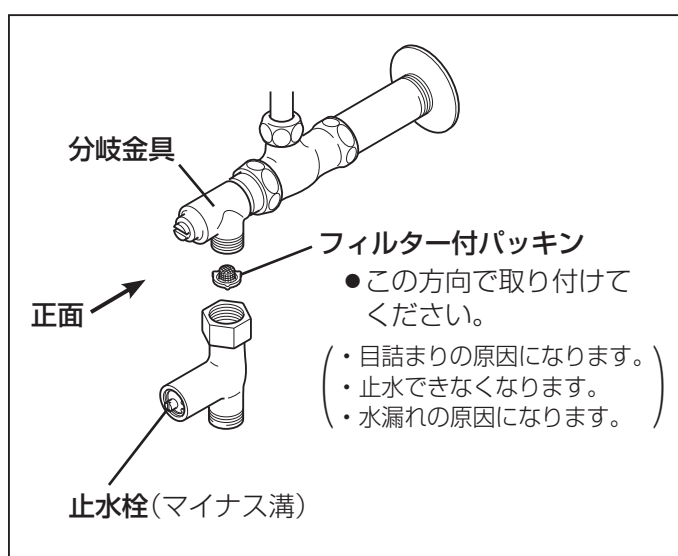
●水栓から水が出ないことを、必ず確認してください

2 給水側止水栓のハンドルを取りはずす

●ハンドルを取りはずすと、給水側止水栓から水がこぼれますので、洗面器などで水を受けてください。
●取りはずしたハンドルは、捨てずに保管しておいてください。

3 分岐金具(付属品)を取り付ける

●Oリングに、傷やごみを付けないようにしてください。

4 分岐金具に止水栓(付属品)を取り付ける

●メンテナンス時に操作しやすいように、止水栓(マイナス溝)を、正面に向けて取り付けてください。

●フィルター付パッキンは必ず取り付けてください。
※取り付けていないと、アルカリ本体内蔵の電磁弁が目詰まりして止水できなくなります。

●フィルター付パッキンは、右図の向きに取り付けてください。
※逆向きに取り付けると、フィルターが目詰まりしやすくなります。また、水漏れの原因になります。

ワークトップへの穴あけ

ワークトップ(カウンタートップ)に、アルカリ用水栓を取り付けるための穴をあけてください。

- **ワークトップに穴をあける際は、アルカリ本体や止水栓に切りくずが入らないようにしてください。**
  (通水路に切りくずが入ると、故障や水漏れの原因になります。)
- **電気ドリルは回転式で、使用するホールソーに適したものをご用意ください。**
- **インパクトドライバーや振動ドリルなど、たたきつけながら穴をあける工具は、使用しないでください。**
  (ワークトップが変形・破損する原因になります。)
- **工具を、無理な力でワークトップに押し付けないでください。**
  (ワークトップが変形・破損する原因になります。)
- **硬い人工大理石カウンターの場合は、予備の工具**(ホールソー替刃)**をご用意ください。**
  (刃が磨耗して、穴あけしにくくなります。)
- **ワークトップの厚みを考慮し、厚さ30 mmに対応できる工具を使用してください。**

⚠注意

■ **ワークトップ(カウンタートップ)の穴あけには、材質に合った工具を使う**

(天然大理石、ホーローなど特殊なものについては、キッチンメーカー指定の設置方法で行ってください。)

無理に穴あけをしようとすると、ワークトップ(カウンタートップ)を破損する原因になることがあります。

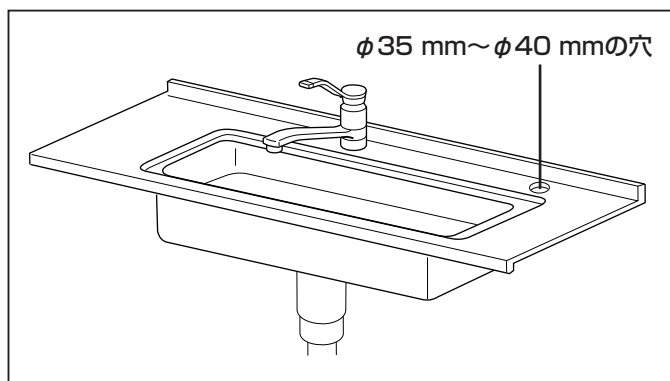
■ **ワークトップ(カウンタートップ)が厚さ30 mm以上の場合は、穴あけしない**

取り付けができませんので、万一、穴をあけた場合に補償問題になることがあります。

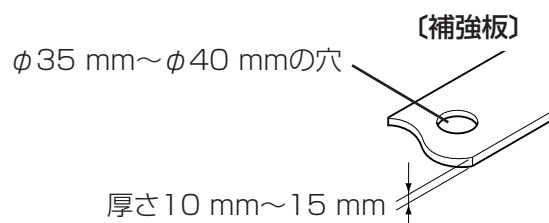
1 穴をあける位置を決める

- 10ページの「アルカリ用水栓の位置決めのポイント」を参照し、穴をあける(アルカリ用水栓を取り付ける)位置を慎重に決めてください。

2 φ35 mm～φ40 mmの穴をあける

- 穴はφ40 mmを超えないようにしてください。
  (流し台内部への水漏れの原因になります。)

- 穴あけ後、バリやエッジをヤスリなどできれいに取り除いてください。
- 穴あけ作業終了後は、くずをきれいに取り除いてください。

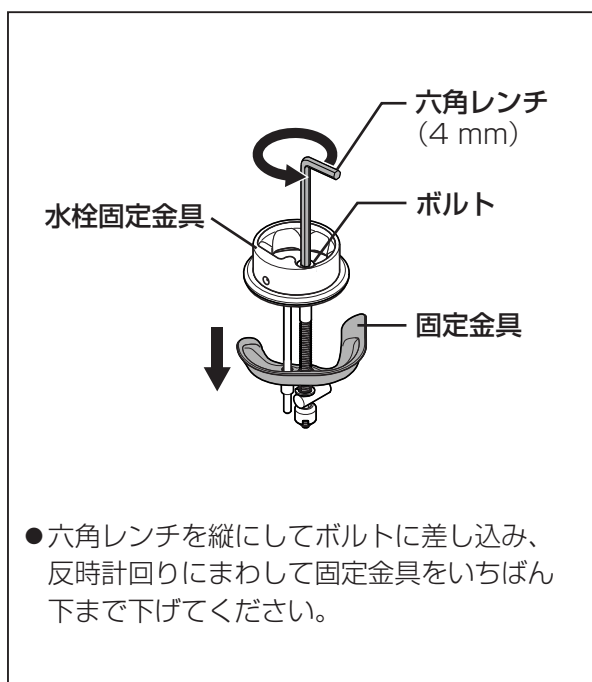
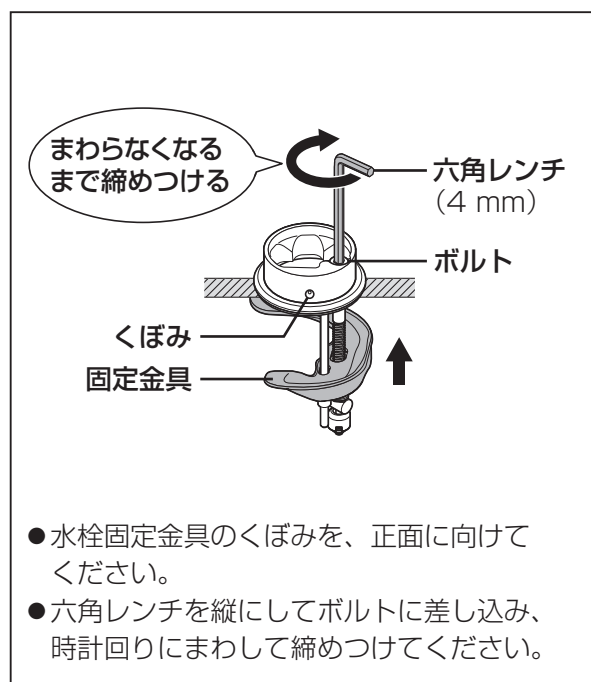
ステンレス製のワークトップで補強板が付いていない場合
(また、補強板が付いていても、ワークトップと合わせた厚さが5 mm以下の場合)

厚さ10 mm～15 mmの補強板にφ35 mm～φ40 mmの穴をあけ、ワークトップの内側に両面テープなどで取り付けて補強してください。

アルカリ用水栓の取り付け

水栓固定金具(付属部品)を使い、ワークトップの穴にアルカリ用水栓(付属部品)を取り付けてください。

- アルカリ用水栓を取り付ける前に、穴の周囲の汚れを取り除き、きれいにしてから取り付けてください。
- 水栓固定金具は正しく取り付けてください。取り付けに不備があると、アルカリ用水栓のガタツキや、流し台内部への水漏れなどの原因になります。
- 電動ドライバーを使用する場合は、クラッチ作動トルクを３Ｎ・m〜７Ｎ・mの範囲に必ず設定してください。また、クラッチ回転速度を「低速」に設定しないでください。トルクが大きくなり、水栓固定金具が破損するおそれがあります。

1 水栓固定金具の固定金具を、いちばん下まで下げる

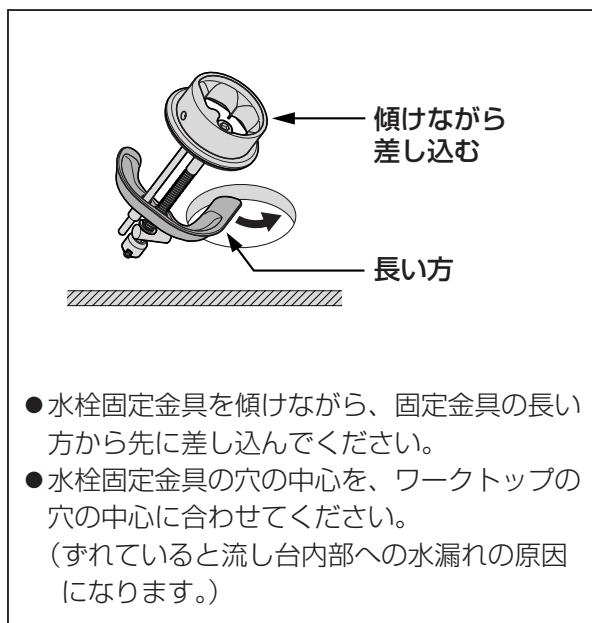
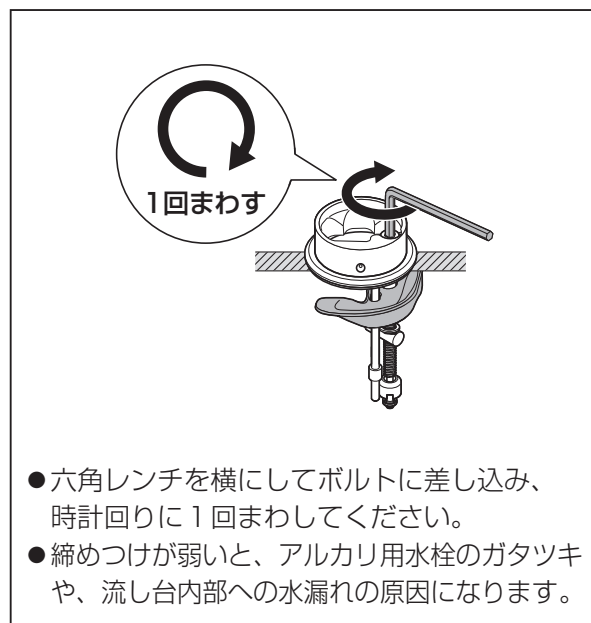
- 六角レンチを縦にしてボルトに差し込み、反時計回りにまわして固定金具をいちばん下まで下げてください。

2 ワークトップの穴に、水栓固定金具を差し込む

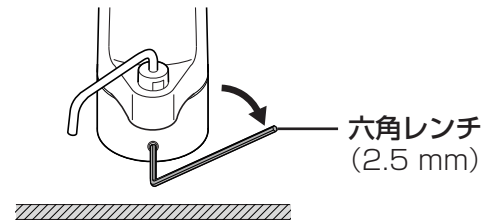
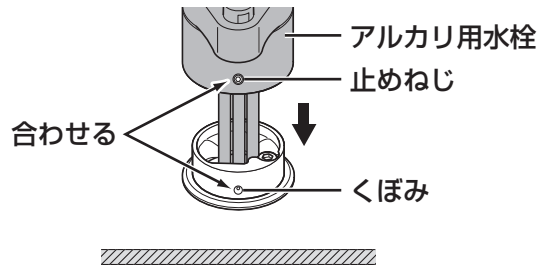
- 水栓固定金具を傾けながら、固定金具の長い方から先に差し込んでください。
- 水栓固定金具の穴の中心を、ワークトップの穴の中心に合わせてください。
(ずれていると流し台内部への水漏れの原因になります。)

3 水栓固定金具のボルトを締める

- 水栓固定金具のくぼみを、正面に向けてください。
- 六角レンチを縦にしてボルトに差し込み、時計回りにまわして締めつけてください。

4 さらに強く締めつける

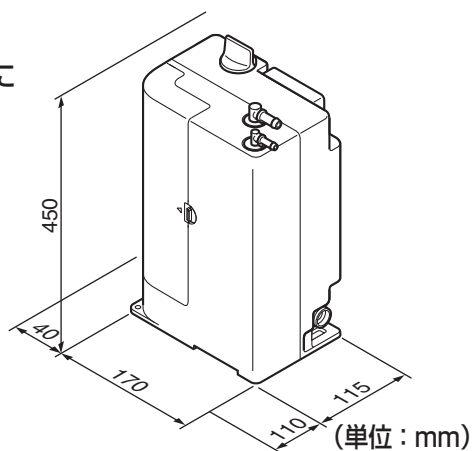
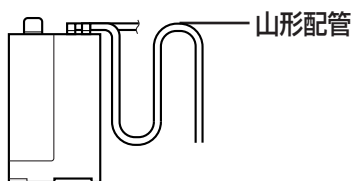
- 六角レンチを横にしてボルトに差し込み、時計回りに１回まわしてください。
- 締めつけが弱いと、アルカリ用水栓のガタツキや、流し台内部への水漏れの原因になります。

アルカリ用水栓の取り付け

5 水栓固定金具に、アルカリ用水栓を取り付ける

- アルカリ用水栓のホースやコードは、ねじらずまっすぐに束ね、止めねじを水栓固定金具のくぼみに合わせて差し込んでください。
- 差し込みにくい場合は、止めねじを少しゆるめ、水栓を左右にゆすりながら差し込んでください。

- アルカリ用水栓に浮きがないように取り付けてください。
- 止めねじをくぼみに確実にねじこみ、止めねじの頭がアルカリ用水栓の表面から出ないようにしてください。

アルカリ本体の設置と接続

アルカリ本体をキャビネット内に設置し、止水栓とアルカリ用水栓に接続します。

- カートリッジの交換およびカルシウム添加のため、右記寸法のスペースが必要です。
- 吐水ホース・排水ホース・給水ホースは、折れ曲がらないようにしてください。
  （水漏れや適切なpHの水が出ない原因）
- 吐水ホース・排水ホースは、山形配管にならないようにしてください。
  適切な長さに切ってください。
  （適切なpHの水が出ない原因）

- 配管終了後は、付属のホース固定バンド（2本）でホース類を固定してください。
- 配管終了後にアルカリ本体が傾かないようにしてください。
  〔傾くときは、アルカリ本体を固定してください。（21ページ参照）〕

- 「アルカリ用水栓をキャビネット外（配管スペース）に取り付ける場合」は、配管用の貫通穴が必要になります。（20ページを参照してください。）

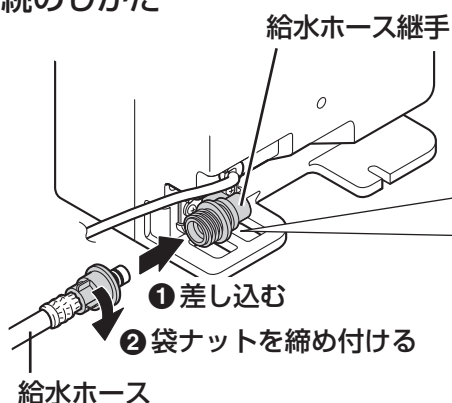
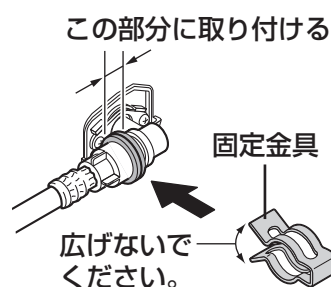
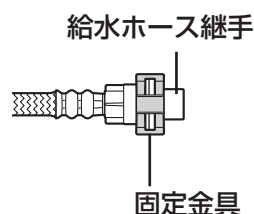
1 アルカリ本体に給水ホースを接続する（接続後は、給水ホースを引っぱって抜けないことを確認する）

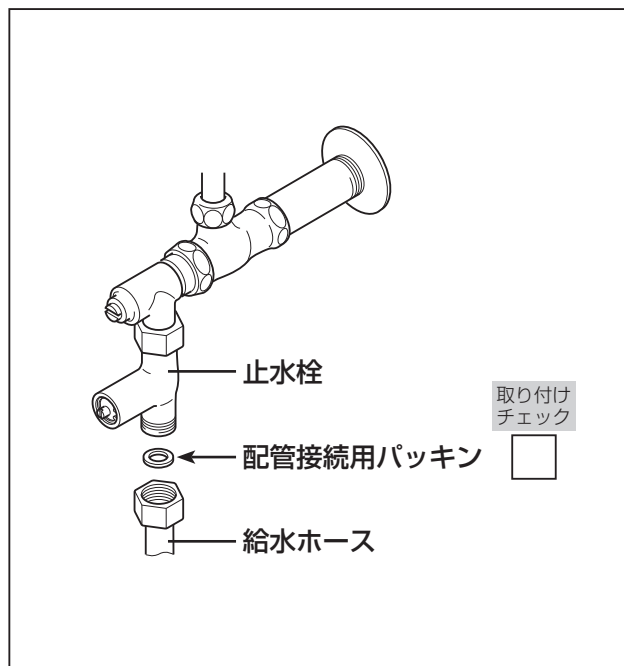
⚠注意

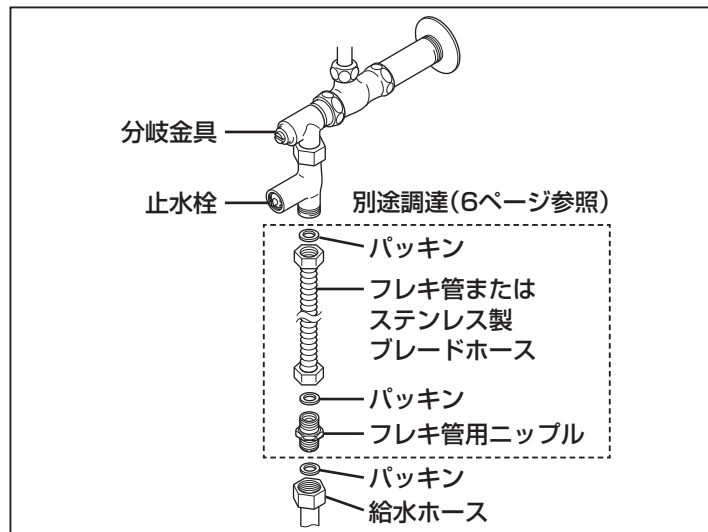
給水ホースは最後まで差し込み、袋ナットをしっかりと締めつけ、固定金具（クイックファスナー）を確実に取り付ける

不備の場合、水漏れの原因になり、大きな補償問題になることがあります。

- 袋ナット（樹脂性）の締めつけに、工具を使用しないでください。

接続のしかた

アルカリ本体の設置と接続

2 止水栓に給水ホースを接続する

■ 配管の延長が必要な場合

- アルカリ本体は、吐水ホース、排水ホース(各々、約940 mm)が届く範囲内に設置してください。
- アルカリ本体と止水栓との距離が長い場合は、配管延長用に必要な部品(6ページ参照)を別途調達し、配管してください。

3 アルカリ本体に操作パネルコードを接続する

コード引き出し口

1 操作パネルコードのコネクターを差し込む

この面を上にして
奥まで確実に
差し込む

差し込み
チェック

2 コード引き出し口から
操作パネルコードを引き出す

取り付け
チェック

結束バンド(2本)は内側に入れる
(外側に出すとコネクター部に
無理な力がかかるため)

ねじ

3 コネクターカバーを取り付ける

- コネクターカバーは、必ず取り付けてください。
(取り付けていないと、故障および本体内に害虫が入る原因になります。)

4 アルカリ用水栓と接続する

アルカリ用水栓

操作パネルコード

吐水ホース（濃いグレー）
折れ曲がらないように
してください。チェック

排水ホース（うすいグレー）
折れ曲がらないように
してください。チェック

アルカリイオン水、弱酸性水、浄水

排水

●各ホースは、下図のように確実に接続してください。

0〜1mm
継手
ホースは奥にあたるまで挿入してください。
ホース締付バンド

排水継手
・排水の表示あり

ホース締付バンド（小）

吐水継手
・吐水の表示あり

ホース締付バンド（大）

誤接続チェック

給水ホース
折れ曲がらないようにしてください。チェック

アルカリ本体後面

水漏れチェック

水漏れチェック

水漏れチェック

⚠注意

■ ホース類は確実に接続する

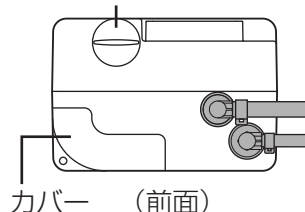
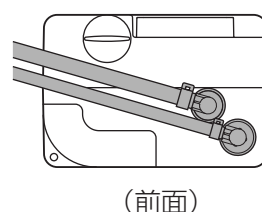
必ず守る
万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

■ ホース類は、ゆるやかにつぶれないように曲げる

必ず守る
急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損の原因となり、漏水し、家財などをぬらす原因になることがあります。

■ 吐水ホースと排水ホースを切るときは、継手からはずして切る

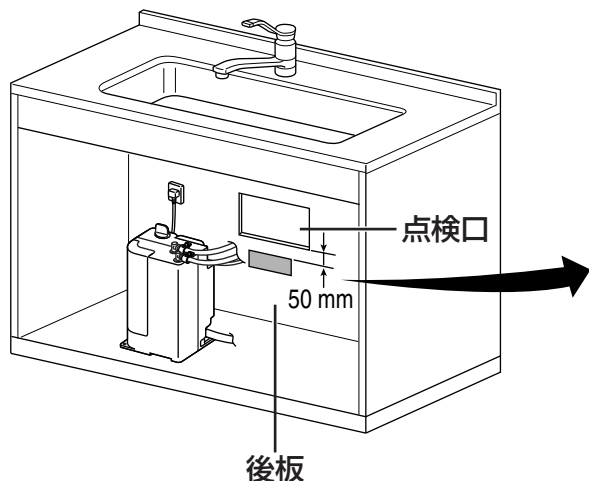
必ず守る
継手に傷が付き、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

●吐水ホースと排水ホースは、たるみすぎないように適切な長さに切ってください。
また、カルシウム添加筒のキャップやカートリッジのカバーにかからないようにしてください。

アルカリ本体の設置と接続

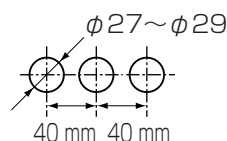
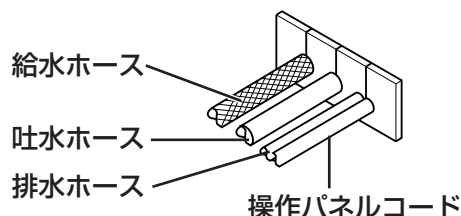
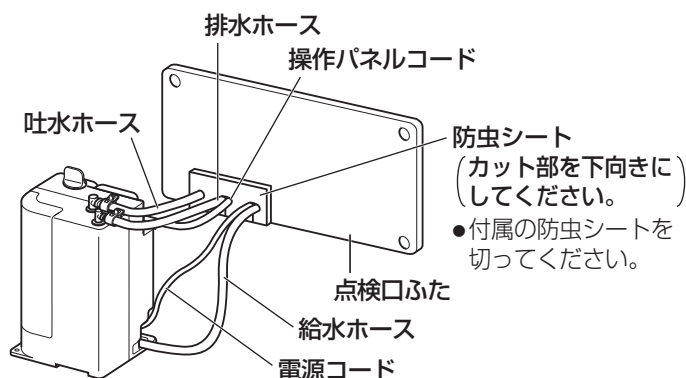
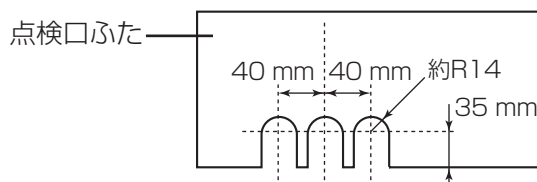
アルカリ用水栓をキャビネット外(配管スペース)に取り付ける場合

点検口の近くに配管用の貫通穴をあけて、配管を接続してください。

●**配管後は、貫通穴を防虫シート**(付属部品)**でふさいでください。**

〈後板が穴加工可能なキャビネットのとき〉

●点検口は、必ず設けてください。

●　　　の範囲内に、穴あけをしてください。

φ27～φ29
40 mm　40 mm

●配管後、防虫シート(付属部品)を貼り付けてください。

〈後板が穴加工できないキャビネット(天然大理石・ホーローなど)のとき〉

●点検口ふたを、切り欠いてください。

●防虫シートは、必ずカット部を下向きにして貼り付けてください。
(上向きに貼ると、点検口ふたが取りはずせません。)

⚠注意

点検口は、必ずアルカリ用水栓を含む配管接続部全体が点検できるように設ける

●次のような場合に止水栓の開閉が必要です。
- 水道配管やアルカリ用水栓を含む配管接続部全体の水漏れ点検時
- 止水栓のフィルター付パッキンの清掃時

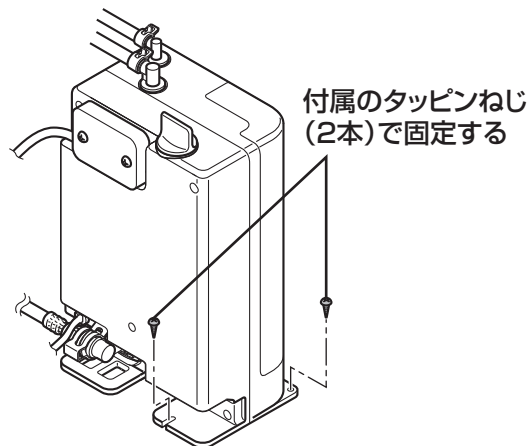
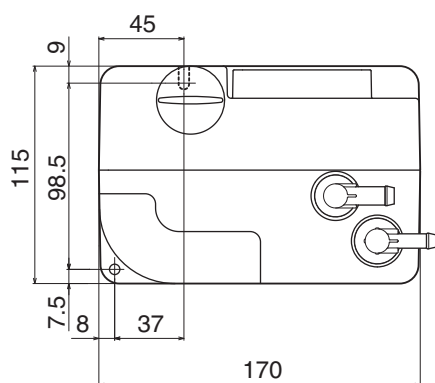
万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

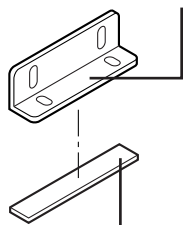
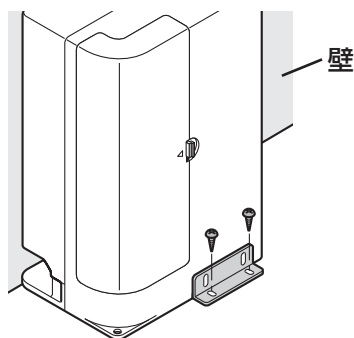
●点検口には、必ずふたをしてください。

アルカリ本体の固定／ずれ防止について

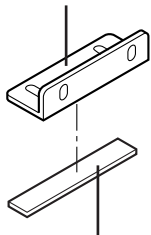
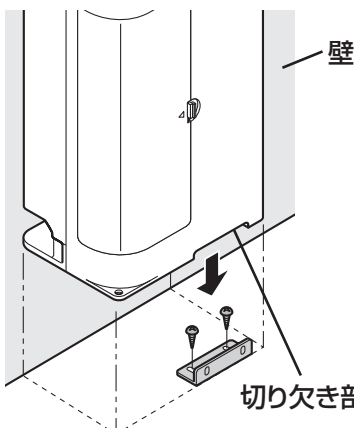
設置後、アルカリ本体が不安定なときは、下記の手順にてアルカリ本体を固定するか、L字金具を使用してずれ防止を行ってください。

■ アルカリ本体の固定

●**ねじ穴の位置図**（単位：mm）

■ アルカリ本体のずれ防止について（アルカリ本体が直接タッピンねじで固定できない場合）

●**L字金具をアルカリ本体の外に出す場合**
（アルカリ本体前面にL字金具取付スペースがあるとき）

1 アルカリ本体後面を壁にあてる

2 アルカリ本体前面にL字金具があたるように、付属のタッピンねじまたは粘着テープで床に固定する

●**L字金具をアルカリ本体の下に入れ込む場合**
（アルカリ本体前面にL字金具取付スペースがないとき）

1 アルカリ本体後面を壁にあてる

2 アルカリ本体前面にL字金具があたるように、付属のタッピンねじまたは粘着テープで床に固定する

3 アルカリ本体の切り欠き部にL字金具をあわせて、本体を設置する

最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）

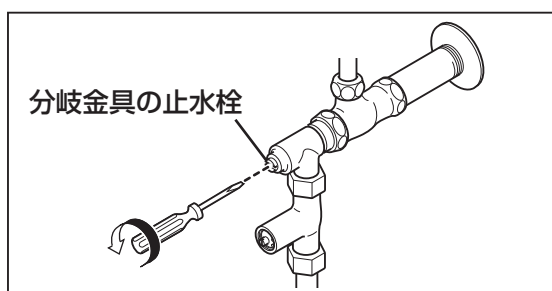
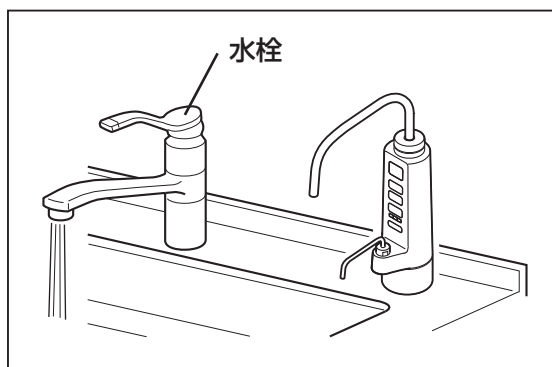
- ●アルカリ本体に水を通す前に、必ず分岐金具の止水栓を開いて、アルカリ用水栓以外の水栓から水を出してください。
  〔配管内のゴミなどを出すため（ゴミがアルカリ本体内蔵の電磁弁に詰まると、誤動作の原因になります。）〕
- ●配管接続部の水漏れは、必ず止水／通水スイッチを数回押して、確認してください。
  （通水後、1秒間は止水できません。）
- ●お客様引き渡しの際は、アルカリを「弱」に設定し、水質は「浄水」にしてください。

1 水道メーターの止水栓を開く

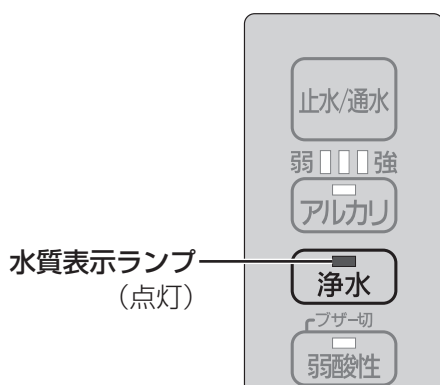
チェック □

- ● 13ページ「手順1」を参照してください。

2 分岐金具の止水栓を開く

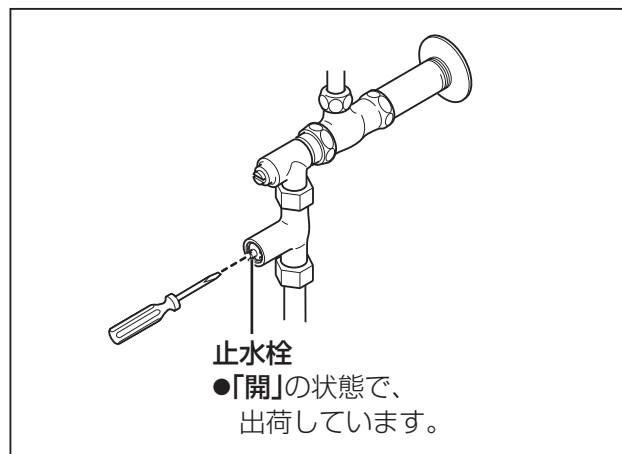
チェック

3 水栓を開く
（配管内のごみなどを出すため）

チェック

4 アルカリ本体の電源プラグを、コンセントに差し込む
（ブザーが「ピッ」と鳴る）

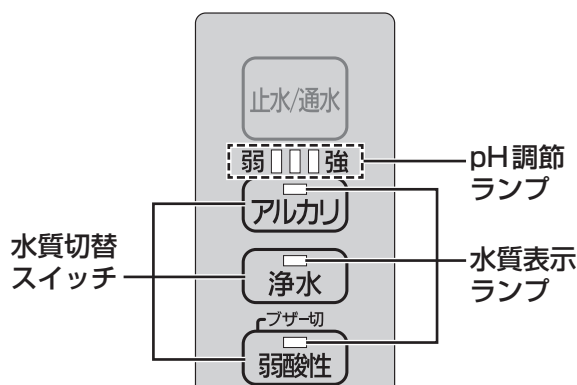
チェック □

- ●「浄水」の水質表示ランプが点灯する

5 止水栓が開いているのを確認する

チェック □

止水栓
●「開」の状態で、
出荷しています。

6 水質切替スイッチを押し、操作パネルの動作を確認する

チェック □

- ●下記の手順で水質切替スイッチを押し、選択した水質の水質表示ランプおよびpH調節ランプが点灯するか確認する
  アルカリ（アルカリ「弱」点灯）⇒ アルカリ（アルカリ「中」点灯）⇒ アルカリ（アルカリ「強」点灯）⇒ アルカリ（アルカリ「弱」点灯）⇒ 浄水（浄水点灯）⇒ 弱酸性（弱酸性点灯）⇒ 浄水（浄水点灯）
- ●水質切替スイッチを押したとき、ブザーが「ピッ」と鳴るか確認する
  ※アルカリ「強」⇒「弱」は、ブザーが「ピッピッ」と鳴る

チェック □

チェック

7 止水／通水スイッチを押し、浄水を約10リットル(約5分間)流す
(カートリッジ内の空気抜きのため)

水信号ランプが約20～30秒間点滅後、点灯に変わります。

- **水信号ランプとカートリッジ寿命ランプ(緑色)が、点灯していることを確認する** チェック
- **浄水を流し、水信号ランプ(緑色)点灯後、排水口の水が止まっているか確認する** チェック
- **アルカリイオン水を流し、排水口から水が出ているか確認する** チェック
  ※ 水が出ていないときは、排水ホースが折れていないか確認してください。

チェック

8 配管の接続部およびカートリッジ部分から水漏れがないか確認する
(カートリッジからの水漏れは、アルカリ本体のカバーを開けて確認してください。)

(カバーのはずしかた)　(カバーの取り付けかた)

9 通水量の確認を行う(24ページ参照)

- 動作に異常がある場合は、操作パネルコードのコネクターが、確実に接続されているか確認してください。(18ページ参照)

- 止水／通水スイッチを押して水を止めても、吐水口および排水口からポタポタと水が落ちることがありますが、異常ではありません。カートリッジ内の空気が抜けていないと起こりやすくなりますので、最初に浄水を約10リットル(約5分間)流して空気を抜いてください。
- **弱酸性水を使用した後は、止水／通水スイッチを押しても、約5秒間水が出ます。**
  (本体内の弱酸性水を排水しています。)
- pH測定については、取扱説明書の9ページを参照してください。

⚠注意

最終点検時は、アルカリ用水栓を含む配管接続部全体の水漏れ点検を十分に行う

必ず守る

万一、水漏れが起こると、大きな補償問題になることがあります。

最終点検（水漏れ、動作および通水量確認）

■ 通水量確認 チェック □

下記の手順で、アルカリ本体への通水量が適正になっているか確認してください。
適正になっていないときは、止水栓で通水量を調整してください。

1 **電源プラグをコンセントから抜き、アルカリ と 浄水 を同時に押しながら、再度差し込む**
（ブザーが「ピッピッ」と鳴る）

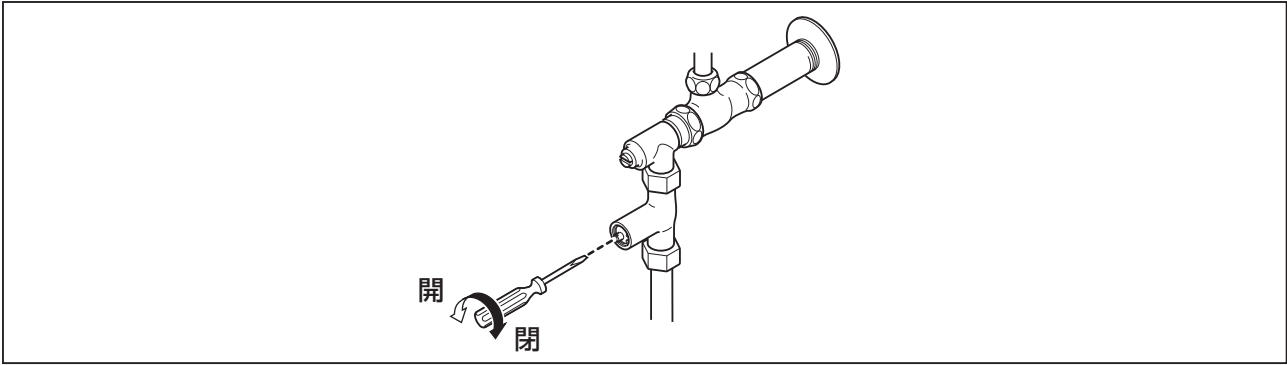
●通水量確認モードに設定します。（「浄水」の水質表示ランプが点滅）

2 **止水／通水スイッチを押して通水し、通水量を確認する**

●通水中は、水信号ランプが緑色に点滅します。（通水量が少なすぎる場合は、点滅しません。）

通水量は、pH調節ランプとブザー音で確認する

通水量	pH調節ランプ	ブザー音
多い	アルカリ「強」点灯	ピーピー…
適正	**アルカリ「中」点灯**	**ピッピッ…**
少ない	アルカリ「弱」点灯	無音
少なすぎる	アルカリは点灯しない	無音

3 **通水量が適正でないときは、止水栓で調整する**

4 **電源プラグをコンセントから抜き、操作パネルのランプが完全に消灯し、5秒以上経過してから、再度差し込む**
（ブザーが「ピッ」と鳴る）

●通常使用モードに戻ります。 チェック □

●設置・点検終了後は、止水していることを確認してください。
●点検終了後、シンクに付着した水はふき取ってください。
（水あかやシンクの変色などの原因になることがあります。）

●水圧が低い場所では、適正な通水量にならないことがあります。（水圧100 kPa未満）
そのときは、カートリッジ寿命が短くなることがありますので、お客様へご連絡ください。
●通水量が少なすぎるときは、電気分解をしません。

■ 最終点検時トラブル対応表

トラブル	対応(チェック項目)	参照ページ
電源プラグをコンセントに差し込んでも、操作パネルのランプが点灯しない	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか?	18ページ
操作パネルのスイッチ操作ができないまたは、動作に異常がある	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか?	18ページ
排水口から水が出ない	●排水ホースが折れ曲がっていませんか? ●「浄水」にして通水していませんか?	19ページ 23ページ
水漏れしている	各配管の接続部には、ホース締付バンドや固定金具を確実に取り付けていますか?	17、19ページ
	付属の止水栓に、フィルター付パッキンが正しい方向で取り付けられていますか?	13ページ
止水/通水スイッチを押しても水が出ない	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか?	18ページ
	止水栓は開いてますか?	22ページ
止水/通水スイッチを押しても水が止まらない	操作パネルコードのコネクターは、確実に接続されていますか? ※水を止めても、吐水口および排水口からポタポタと水が落ちることがありますが、異常ではありません。	18ページ
	付属の止水栓に、フィルター付パッキンが取り付けられていますか? ※アルカリ本体内蔵の電磁弁にゴミが詰まると、止水できなくなります。	13ページ
	浄水を約10リットル(約5分間)流していますか? ※カートリッジ内の空気が抜けていないと、起こりやすくなります。	23ページ

〈最終点検チェックリスト〉

チェック項目	チェック内容	チェック
水 漏 れ	接続部	未 ・ 済
	カートリッジ部	未 ・ 済
	アルカリ用水栓部	未 ・ 済
	アルカリ本体	未 ・ 済
動 作	通水量確認後、通常使用モードに設定したか	未 ・ 済
	各スイッチは、正しく動作するか	未 ・ 済
	各ランプは、正しく点灯するか	未 ・ 済
	水質切替スイッチを押したとき、ブザーが鳴るか	未 ・ 済
	排水口から水が出るか	未 ・ 済
	「浄水」にして通水したとき、排水口から水が出ていないか	未 ・ 済
	通水量の確認を行い、適正だったか	未 ・ 済
お客様への連絡事項		

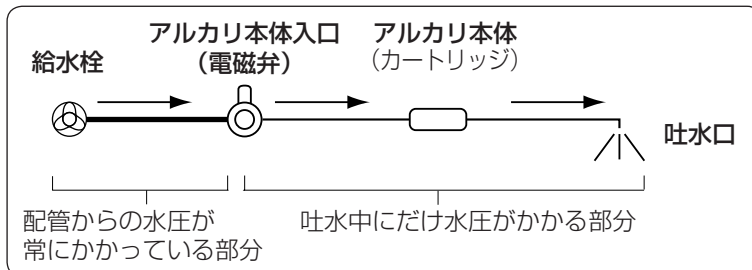
チェック日	年 月 日	販売店	TEL ( ) −	担当者	

●設置終了後、施工説明書は、最終点検チェックリストに必要事項を記入のうえ、取扱説明書・保証書・グリセロリン酸カルシウム製剤・pH試験液と一緒に、必ずお客様にお渡しください。

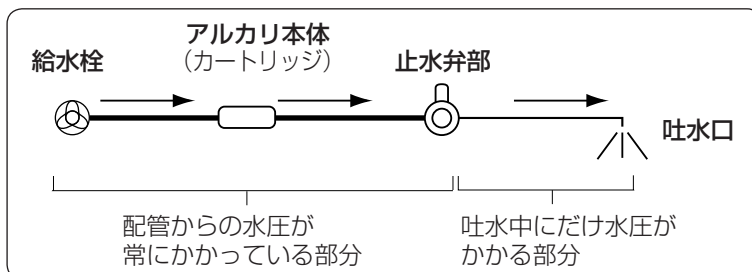
参考

配管方式について

本器は、施工説明書に従い、必ず「元止め方式」で配管してください。

元止め方式とは…

吐水中にだけ、アルカリ本体（カートリッジ）に水圧がかかる方式

- お客様が不在のときなどの漏水事故で、過大な損害が発生することを防止する方式です。

先止め方式とは…（参考）

常にアルカリ本体（カートリッジ）に水圧がかかる方式

- 先止め方式の場合は、止水／通水スイッチを押すと、すぐに水が止まります。

カートリッジについて

本器に装着しているカートリッジ（品番：TKB6000C1）で除去できる物質は、下記の13種類です。それ以外の有害物質や、水中に溶け込んでいる鉄分・重金属類（銀・銅など）・塩分（海水）は、除去できません。

除去できる物質

- 遊離残留塩素
- 濁り
- 総トリハロメタン
- クロロホルム
- ブロモジクロロメタン
- ジブロモクロロメタン
- ブロモホルム
- テトラクロロエチレン
- トリクロロエチレン
- 1,1,1-トリクロロエタン
- CAT（農薬）
- 2-MIB（カビ臭）
- 溶解性鉛